

## 清風会視察研修報告書

日時：平成27年4月22日（水） 1：30pm～4：30pm

場所：宮城県石巻市、津波避難タワー、津波避難ビル  
復興まちづくり情報交流館

参加議員：堀崎松男、高屋敷英則、畑中勇吉、小柳正人  
友好会派 山口健一

### 1) 大宮町津波避難タワーについて

担当：石巻市総務部防災推進課 課長 亀井一彦氏



#### \* 背景・目的

- ・ 東日本大震災では尊い多くの市民の命が失われたが、今後、津波発生時において人命が失われないよう避難施設の整備が急務である。高台や浸水区域外に迅速に避難できない沿岸部において、近隣に津波避難ビルや公共の避難施設の整備が見込めない場所へ、タワーを整備し地域の安全と安心を図るもの。

\* 大宮町津波避難タワーに係る主なスケジュール

- ① 平成 26 年 8 月 本体工事に着手
- ② 平成 27 年 3 月 竣工
- ③ 平成 27 年 3 月 石巻市津波避難タワー設置条例を制定

- ・ 設置目的～津波から市民の生命と身体を守る。
- ・ 名称及び位置～大宮町津波避難タワー 大宮町 3 番 15 号
- ・ 施設の使用～津波発生時には避難施設として、平時には防災訓練等に使用する。

\* 場所・構造等

- ① 番地： 石巻市大宮町 3 番 15 (渡波保育所跡地)
- ② 構造： 敷地 1, 405 m<sup>2</sup>に鉄骨平屋建て、床面積 127 m<sup>2</sup>、建築面積 195 m<sup>2</sup>、塔脚部 9 m、軒高 13.4 m、南北 2ヶ所に階段を設置
- ③ 設備等： 居室部に 100 人、屋上に 100 人、(1 m<sup>2</sup>に 1 人と言う考え方) 合計 200 人が避難可能。室内には簡易トイレ設置場所 2ヶ所、収納型ベンチを設置し飲料水、食糧、毛布などの災害時備蓄品を収納する。室内に移動パーテーションを設置し、最大で 3 分割することが可能。
- ④ 屋上： 太陽光パネルと室内の蓄電装置により、3 日間は停電時にも照明などが使用可能。ヘリコプターによる救助を想定し、夜間でも視認できるように照明ランプを設置。
- ⑤ 非常用通信： 簡易無線機 (デジタル無線機)
- ⑥ 入口： 震度 5 以上で自動解除されるキーボックスを設置。ドアを打ち破って入ることも可能。

## 2) 津波避難ビル、宮城エキスプレス（株）について



\* 背景・目的～津波避難困難区域において津波から市民の安全を確保する為、民間事業者等が設置する施設を避難ビルとして活用する。また、津波避難ビル等の防災対策を推進することにより、早期に復旧を目指す民間事業者の一助として、石巻市の産業復興を図る。

\* 主な補助内容（上限1000万円）

- ④ 案内表示板設置等工事～4分の4
- ⑤ 備蓄品倉庫設置等工事～4分の4
- ⑥ 災害備蓄品又は資機材購入費～4分の4
- ⑦ 津波避難場所の設置又は改修等工事～4分の3
- ⑧ 外付け階段設置等工事、屋上フェンス設置工事等～4分の3

\* 宮城エキスプレス（株）の指定概要

- ① 平成25年5月 第3号として管理協定締結
- ② 構造～鉄骨造5階建
- ③ 避難スペース～5階及び屋上（合計約818.4㎡）
- ④ 収容人員～約788人

## ⑤ 東日本大震災のアーカイブを常設展示

(所感)

津波避難タワーの設置工事費は地質調査等を含め約2億円、設置場所は以前保育所があった市有地とのこと。地盤の関係から塔脚部には地下70m～80mの長さの杭が必要であったとのことであり、この事が当初予算より工事費が高騰した原因の一つとのこと。この場所は浜風が強い地域なので、寒さ対策として避難用居室が整備されており、中には簡易トイレ室や収納型ベンチ等の設置などは、市民の方々の避難時の体験からの声を拾い集められたものと思われる。平常時に集会等の使用が可能とも思われる立派な居室だが、訓練時以外は使用されることはないとのこと。今後も他に3ヶ所の津波避難タワーを建設する予定であり、半径500mに津波避難タワーか津波避難ビルを設置する考えであるとのことである。津波避難ビルに指定されている宮城エクスプレス(株)には屋上にヘリポートが整備されており、避難場所としての機能が十分整備されてる避難ビルと感心させられた。また、5Fに展示されている石巻市の被災直後の写真集は必見に値するものと思われる。このビルの他、現在石巻市では10箇所の建物を避難ビルとして指定しているとのことである。

一方、久慈市の津波避難タワー建設計画を見ると、床面積が82,74㎡で収容人数が最大で200人と計画されているが、視察した石巻市の津波避難タワーは床面積127㎡で屋上と合わせて約200人の避難数が可能としており、1㎡に1人との考えである。また、災害時に3日間は照明等を可能とするため、屋上に太陽光パネルの設置、居室内に蓄電装置が整備されているなど、津波被害の大きさや市民の方々の被災体験からの教訓等の違いを認識させられた思いである。

3) 石巻市復興まちづくり情報交流館「中央館」について

担当：石巻市総務部秘書広報課 課長 三浦孝一氏



- \* 設置目的：東日本大震災からの復旧・復興事業の進捗又は地域におけるまちづくりの取り組みに関する情報並びに震災から得た知識及び教訓を発信し、震災により被害を受けた市民同士の意見交換又は来訪者との交流の場を創出するため、石巻市復興まちづくり情報交流館を設置した。
- \* 名称：石巻市復興まちづくり情報交流館「中央館」
- \* 設置場所：石巻市中央二丁目8番11号 TEL0225-98-4425
- \* 開設日：平成27年3月7日
- \* 開館時間：午前9時30分～午後9時（休館日：火曜日）  
（展示スペースは午後6時まで）
- \* 展示内容等
  - ⑨ 交流スペース～情報交流館に集う人々が交流することができるスペース
  - ⑩ 復興まちづくり展示スペース～復興事業や地域の取り組みに関する情報を発信するスペース
  - ⑪ 震災復興プロセス展示スペース～震災以前の石巻の様子や震災当時の様

子を時系列的に配置したスペース

\* 工事概要

- ・ 建物：軽量鉄骨造平屋建（プレハブ～仮設とのこと）
- ・ 建築面積：136.71㎡
- ・ 設置工事費：67,799,160円（財源：東日本大震災復興交付金一括配分）

- ・ 請負業者：大和ハウス工業株式会社仙台支店
- ・ 工期：平成26年11月29日～平成27年2月27日

\* 管理運営：直営管理（受付業務は「石巻市復興まちづくり情報交流館運営協議会」に業務委託。平成27年9月からは師弟管理に移行する予定。）

\* 主な維持管理費

- ・ 平成27年3月7日～3月31日の維持管理費（652,463円）
- ・ 平成27年度予算（4月～8月）  
情報発信業務委託料（主に人件費4,624,000円） 維持管理委託料（警備・清掃費150,000円）  
光熱費等（1,205,000円）  
（平成27年9月から指定管理者に移行予定。当該予算は今後補正対応）

\* 利用状況

- ・ 平成27年3月～1,485人（67.5人/日、22日間）
- ・ 平成27年4月 575人（31.9人/日、4月20日現在）

（所感）

石巻市の震災以前の街並み、震災直後の被災状況、そしてこの4年間の復旧・復興事業の進捗状況がわかりやすく展示されている。其上、NPO「石巻市復興まちづくり情報交流館運営協議会」のスタッフが丁寧に説明・解説をしてくだされるなど、今年の3月開館し、早々の視察訪問ではあるが、一生懸命さと「おもてなしの心」が大いに感じ取られた。1,2ヶ月後には同館の隣に屋台村風飲食店街がオープンするとのことで、より一層来館者数の増加が見込まれるものと思われる。今後のまちづくり計画を表した石巻市全体のジオラマ模型をみると、約4,000人の死傷者を出した今回の津波災害の大きさと、震災からの復旧・復興事業には莫大な予算が必要と思われる。

余談であるが、石巻市役所は中心市街地に立地する空きビルとなった商業集積ビルに東日本大震災の1年前に移転したとのことである。同ビル内にはスーパーや小売店等があり、まるでデパートか百貨店の中に市役所がある様で、中心市街地の活性化にも貢献しているのではと思われ、なかなかユニークで驚かされた。惜しむらくは、周辺の駐車場がほとんど有料であったことである。

日時：平成27年4月23日（木） 9：00 a m～10：30 a m

場所：石巻市内

1) 石巻・大震災まなびの案内

案内：石巻観光ボランティア協会 会長 斉藤敏子氏



- \* 石巻駅前の「ロマン海遊21」からスタート、視察ジャンボタクシーに同乗し、市内各所の被災現場に関する震災当時の状況等を解説していただいた。
- \* 南浜町、門脇町エリアは震災前約1800世帯、4300人程が居住されていたが、約7mの津波で住居、商店等がほぼ全壊し更地となっており、道路より海側は災害危険区域に指定され、国、県、市が復興祈念公園の整備を予定しているとのこと。
- \* 石巻市立病院は震災直後、400人以上が取り残され、4日後に全員救助されたとのこと。2013年3月に解体が終了し、石巻駅前に平成28年7月に再建が予定されているとのこと。
- \* 旧門脇小学校の児童は裏手の日和山に避難したが、津波とともに発火した瓦礫が押し寄せ、校舎が類焼したとのこと。現在は震災遺構として残すかどうか審議中とのこと。
- \* 東日本大震災における石巻市の被害状況
  - ・ 震度～最大6強
  - ・ 津波の高さ～平常水位から最大+8.6m
  - ・ 浸水面積～73km<sup>2</sup>（市内の13.2%が浸水）
  - ・ 死者～3,176人
  - ・ 行方不明者～425人
  - ・ 建物被害～全壊、半壊、一部損壊、合計56,696棟

(所感)

市内各所で震災時起こったであろう「人間ドラマ」を想像しながら、ボラン

ティア協会の齊藤氏の解説に、時には涙しながらのひと時であった。特に某保育園で午後3時過ぎの居残り児童約11人を園長さんの機転で、園舎の屋根の上に避難させ、全員無事であったという話には、同世代の孫を持つ身としては感動物であった。津波が襲ってきた時、人々が駆け上り悲痛な思いで被災状況を眺めていたという、日和山公園から市内を見渡すと、震災がもたらした過酷な現実が実感され、被災の記憶と教訓を次世代に語り伝えて行くべきと、再認識させられた。まだまだ復興にかかるであろう予算・時間等を考えると、一日も早い石巻市の復興を願わずにはいられない心境である。



日時：平成27年4月23日（木） 1：00pm～1：30pm  
 場所：宮城県栗原市栗駒稲屋敷九ノ戸



\* 九戸政実の首洗いの池～九戸政実の乱で捕らえられた政実以下8人の武（九戸政実、久慈直治、円子光種、大里親基、櫛引清長、七戸家国、大湯昌次、一戸実富）がこの地で処刑され、政実の首を洗ったと言われている小さな池。

\* 九ノ戸神社～明治初年に武将らを埋葬した塚を見つけた行者が、九ノ戸神社を建立した。8人の武将が祀られていると伝えられている。

(所感)

首洗いの池は公道側の畑の中にあり、また、九ノ戸神社は民家の庭に鎮座しており、九戸城主であった九戸地域の英雄でもある九戸政実終焉の地としては、いかにも寂しい限りである。もちろん我が久慈城主であった久慈直治の終焉の地でもあるわけである。「首級清めの池と九ノ戸神社」と題した案内板が「平成13年3月、栗駒町教育委員会」と銘打って立てられており、九戸政実の乱及び後の経緯等が解説されているのがせめてもの救いと感じられた。

久慈市及び九戸地域と栗原市との間で何らかの交流を推進すれば、お互いの「まちづくり」の一助となるのではとも思われる。

なお、九ノ戸神社は特に頭部（目・鼻・耳・口）の疾病に靈験があるとのこと、地域住民の深い信仰を受けているとのことである。